

	パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5	パターン6
	リモートデスクトップ方式	仮想デスクトップ方式	クラウド型アプリ方式	セキュアブラウザ方式	アプリケーションラッピング方式	会社PCの持ち帰り方式
概要	オフィスにある端末を遠隔操作	テレワーク用の仮想端末を遠隔操作	クラウド上のアプリケーションを社内外から利用	特別なブラウザを用いて端末へのデータ保存を制限	テレワーク端末内への保存を不可とする機能を提供	オフィスの端末を持ち帰りテレワーク端末として利用
テレワーク端末に電子データを保存するか？	保存しない	保存しない	どちらも可	保存しない	保存しない	保存する
オフィスの端末と同じ環境を利用するか？	同じ	テレワーク専用の環境	クラウド型アプリに関しては同じ	ブラウザ経由で利用するアプリに関しては同じ	テレワーク専用の環境	同じ
クラウドサービスを利用するか	しない	しない	する	する	する/しない どちらも可	する/しない どちらも可
高速インターネット回線の必要性	必須	必須	望ましい	望ましい	望ましい	不要

	IPSec-VPN	SSL-VPN
リモートアクセス端末への 専用ソフトインストール/環境設定	<b>必要</b> 環境設定も複雑 (専用ソフトは、IPSec-VPN装置と同一メーカー製品が原則)	<b>不要</b> 専用ソフトが必要な場合は自動インストール、自動環境設定
リモートアクセス端末機器	△ 専用ソフトが対応している装置 (パソコンが中心)	○ パソコン、 携帯電話 (WEBブラウザ使用)
コンテンツやサーバーに対する アクセス制御	△ 難しい	○ 容易
初期導入コスト	○ 低い	△ 高い
運用管理コスト	△ 高い	○ 低い
既存ネットワークへの適用性	△ NAT (アドレス変換)、ファイアウォール越えなどの考慮が必要	○ シームレスに導入可能
性能 (処理速度・アクセス速度)	○ SSL-VPNより高速	△ IPSec-VPNより低速

	リバースプロキシ方式	ポートフォワーディング方式	L2フォワーディング方式
リモートアクセス端末側構成要素	WEBブラウザ	WEBブラウザ＋モジュール (WEBからダウンロード、自動インストール)	WEBブラウザ＋モジュール (WEBからダウンロード、自動インストール)
使用可能アプリケーション	△ WEBアプリケーション	○ 通信中ポート番号が変わるものは使用できない場合あり	◎ ほとんどのアプリケーションで使用可能
リモートアクセス端末機器	○ WEBブラウザが動く端末	△ モジュールの仕様によって制限 利用時に管理者権限が必要	△ モジュールの仕様によって制限
用途	出張先の端末などから簡単に使いたい。 仕様アプリケーションはWEBメールやWEB型グループウェアなどWEBページ中心	クライアント端末のOSが様々である。 ある程度の種類のアプリケーションを使いたい	アプリケーションを制限なく使いたい。 使用されるクライアント端末の種類は限られている。